

第322回くらしの植物苑観察会 令和8年6月27日（土）

「夏の果実と生きもの」

西内 李佳 千葉県立中央博物館 研究員

今回の植物苑観察会では、梅雨～夏の初め頃の植物やその他の生きものの見どころを観察したいと思います。植物の見どころとしては花と果実が挙げられると思いますが、実は夏というのは花も果実もそれほど多くないシーズンです。しかし、夏でも植物を含めた様々な生きものが様々な活動をしています。たとえば昆虫の観察は実は初夏～梅雨頃が適期です。今回の観察会では、一般的に「見どころが多くない」と思われがちなシーズンであっても、植物苑や林を歩けば色々な生きものを観察することができるということを、「植物」は果実を中心に、「その他の生きもの」は植物につく昆虫を中心にしてみたいと思います。

観察会の前半では、スライドを用いて植物の果実の多様性や植物につく昆虫の生態などについて解説します。果実は植物の生殖器官であり、中の種子を効率的に遠方へ運ぶ役割（種子散布）を持っているものがあります。種子散布の戦略は植物によって様々で、それにより果実の形態も様々です。植物につく昆虫は多岐に渡りますが、植物の側から見れば一般的には“害虫”とされるアブラムシやカイガラムシなどの昆虫にも面白い生態があるので、今回はそれを中心に紹介します。

後半では、くらしの植物苑内を歩きながら、「生きものの夏の見どころ」を参加者の皆さんと共に探してみたいと思います。いつもとは少し違う視点で植物苑を見ることで、皆さんの生きもの観察の面白さがワンランクアップすることを目指したいと思います。

.....

次回予告 第323回くらしの植物苑観察会 令和8年8月22日（土）

※博物館講堂にて開催となります。ご注意ください。

「芸をする朝顔」

仁田坂 英二氏（九州大学大学院理学研究院 准教授）

13：30～15：30 国立歴史民俗博物館 講堂（定員240名） 申込不要